

令和七年 高尾山中興開山六百五十年

高尾山報

令和6年8月号

眼下に広がる雲海を臨み
遙かなる頂きへと歩みを進める

第十五箇度靈峰富士登拝修行



法の水茎

大正大学講師 高橋秀城 (146)

ほんれつとう 本列島は、猛暑に豪雨に
と不安ない天候が続きました。被害に遭われた皆さんに心よりお見舞いを申し上げます。

秋立ちて
幾日もあらねば
この寝ぬる
朝明の風は
手本寒しも
(万葉集 安貴王)
(秋になつて何日も経た
ないのに、今朝の明け方
の風は手首に涼しさを覚
えるよ)

立つとは、一に十
四節氣
(立秋) (今年は八月
七日) を表します。
上での秋を迎えて涼や
かな風が朝な夕なに吹き
年々季の移ろいを感じ
始めているでしょうか。
わざり行われました。

高尾山報

令和6年8月1日 第727号

梅雨明けしてから日の日に
と不安ない天候が続きました。被害に遭われた皆さんに心よりお見舞いを申し上げます。

秋立ちて
幾日もあらねば
この寝ぬる
朝明の風は
手本寒しも
(万葉集 安貴王)
(秋になつて何日も経た
ないのに、今朝の明け方
の風は手首に涼しさを覚
えるよ)

立つとは、一に十
四節氣
(立秋) (今年は八月
七日) を表します。
上での秋を迎えて涼や
かな風が朝な夕なに吹き
年々季の移ろいを感じ
始めているでしょうか。
わざり行われました。

得度式嚴修

七月二十八日(日)

蝉時雨が響く夜明け前の高尾山大本堂に於いて、
佐藤貫首戒師のもと、新たに仏門に入り僧侶となる
ための得度式が執り行われました。

得度者は栃木北部教区・普濟寺住職・高橋秀城
法資・高橋秀真さん(十歳・写真右より一人目)と、
東京多摩教区・大藏院住職・有松孝真法資・有松
凌佑さん(十歳・写真左)です。

今回法名、袈裟、戒律(十善戒)を授けられ、
新たに仏門に入られる新發意の、今後様々な修行で
の精進を願うものであります。

(3) 令和6年8月1日 第727号



戒師より戒律を授けられる新發意の二人

お大師さまと深く結び
つく話に「箸立伝説」と
いうものがあります。こ
れは、高僧や貴人が弁当
に用いた箸を地に立てた
ところ、それが根づいて
芽を吹き大木となつて、
やがて御神木になるとい
う伝説です。西行(一
八〇一九〇)や源頼
朝(一一四七一一九九)の
太田道灌(一四三二)一
四八六などが主人公と
なる話が伝わる中で、と
りわけ全国的に多く見ら
れるのはお大師さまにま
つわる「箸立伝説」です。

昔、お大師さまが宝生山
は宇陀郡内牧村(現在の
宇陀市榛原の一帯)に
登るときここで弁当を
食べ、箸を地に立てた
ものが成長したものと
か。伐採するときには
るため、しめ縄を張つて
守られてきたのだそう
思えば、「柳田国男監修『日本
伝説名彙』参照」。

いよいよ天狗の落し文(43)

元 会者定離 一期一会の
生きて行く 心離さず み教えを

出会いあれば別れあり。卒業や引っ越し、死別など、別れは避けられないものです。茶道に由来する「一期一会」という言葉にありますように、誰かと出会っている時間は、一度限りのものだと大切に感じて下さい。

講の搗り粉木隠し」とい
う諺も残されており、そ
れは次のような伝説に基
づいています。

旧暦十一月の大師講の
講の搗り粉木隠し」とい
う諺も残されており、そ
れは次のような伝説に基
づいています。

旧暦十一月の大師講の
講の搗り粉木隠し」とい
う諺も残されており、そ
れは次のような伝説に基
づいています。

女性の足跡を隠したのだ
そうです。

〔『諺語大辞典』参照〕

「大師講」では、片足
の不自由さを伝えるこの
講の搗り粉木隠し」とい
う諺も残されており、そ
れは次のような伝説に基
づいています。

旧暦十一月の大師講の
講の搗り粉木隠し」とい
う諺も残されており、そ
れは次のような伝説に基
づいています。



真っ直ぐに聳え立つ飯盛杉

第十五箇度 靈峰富士登拝修行記

七月二日～三日 法務課 加久保 範順

七月二日から三日にかけて第十五箇度靈峰富士登拝修行が上村法務部長先達のもと、行われました。

元々この登拝修行は、



二回目の登拝修行に際し道中の無事を願い滝行する筆者

が実修してこられたもので、江戸時代より連綿と続く富士講の伝統にならい、高尾山から富士山頂まで徒歩で行くという、全国でも例をみない淨行

であります。

しかし、令和二年のコロナウイルス流行以来、中止もしくは縮小せざるを得ない状況になつておりました。が、本年は修行再興の機運も高まり、五年振りに山頂を目指す修行が実現致しました。

出発に先立つ七月一日、当山大本堂において佐藤御貫首より道中の安全を祈願する御札の御加持を頂きました。出発の日、まずは午前中に琵琶滝水行道場で身心を清め、午後、富士吉田市に移動し、北口本宮富士浅間社を参拝して登山の安全を祈願致しました。その後、登拝の起点となる富士山五合目の佐藤小屋に入りました。

話は逸れますが、私は令和元年に行われた第十三箇度の富士登拝修行に参加致しました。この時は高尾山の職員になる前のことであり、有縁の僧侶としてお誘い頂いての修行でした。修驗道の修行をするのも、富士山へ足を踏み入れることさえ

も初めての体験でしたが、諸先達（当時の上村法務係長も先達の一人でした）に一から親切丁寧にご教示頂き、勇気づかれ励まされ、無事成満が叶いました。

その後、高尾山の僧侶として奉職することになり、全国各地の靈山での修行に参加させて頂く中で、本年は五年振りに山頂を目指す富士登拝修行を行に私も参加する機会を



無事山頂に辿り着いた一行



穏やかな気持ちで一心に写経を進める



皆様の写経を御本尊様にお納め致しました

一文字ずつ心を込めて
第四十二回 高尾山写経大会
七月二十八日

梅雨が明け夏本番を迎えた高尾山では、恒例の高尾山写経大会が開催され、およそ九十名の方々に参加を頂きました。会場の有喜閣大広間に集まつた参加者は開会式に際し、佐藤貫首をはじめとした山内の僧侶と共に般若心経を読誦し、その後一文字一文字に仏様を感じ自身の内面を見つめながら、丁寧に書写されました。また、自宅で写経して高尾山に納める在宅写経も合わせて行い、大勢の方々の参加を頂きました。写経大会後には佐藤貫首導師のもと納経式が厳修され、皆様の諸願成就を祈念すると共に、本日書写頂いた写経と、郵送にてお送り頂きました写経を、御本尊飯縄大権現様御宝前にお納め致しました。

ルートを出発しました。途中、幸い雨は降りませんでしたが、身体が持つて行かれるほどの激しい強風が続きました。風の音は如來の説法と申しますが、まるで日頃の不徳を叱責されているかのように向い風もあれば、優しく背中を押してくれるような、吹き上げる追い風を感じることもありました。

途中、八合目の烏帽子岩神社を参拝し、山頂には午前九時四十五分に到着しました。久須志神社で国家安穩、万民豊楽などを祈願する法樂をしたのち、下山を開始しました。

相変わらずの強風とそれに沿って吹き付ける砂礫、強い日差しには大変難儀しましたが、誰一人決して弱音を吐かずに足進める姿に導かれ、なんとか佐藤小屋に到着することができました。

そして、再び北口本宮富士浅間神社を訪れ、無事に登拝できたことを感謝する正式参拝を終え、

一路高尾山に戻りました。高尾山麓の不動院では、深田執事をはじめ山内重役、職員のみなさまに温かくお出迎え頂きました。自分がこの修行に身を投じることができるもの、快く送り出してくださった佐藤御貫首をはじめ、留守を守つて下さる薬王院の職員の皆様や、日頃支えてくれる家族がつてこそです。また、これまで積み上げてきた先輩方の努力や、高尾山御信徒の皆様の篤いご信心、山小屋の皆様や登山道を整備して下さる関係者の方々の労苦など、そうした目に見えないものに思いを馳せながら、修行に臨んだ次第です。

この度の貴重な修行で実践した自分自身への慚愧懲悔を忘れぬよう胸に刻み、自らの置かれた環境、周りの人、物事への感謝と報恩を口先だけでなく行動と人格で実際に顕して証明していく所存であります。

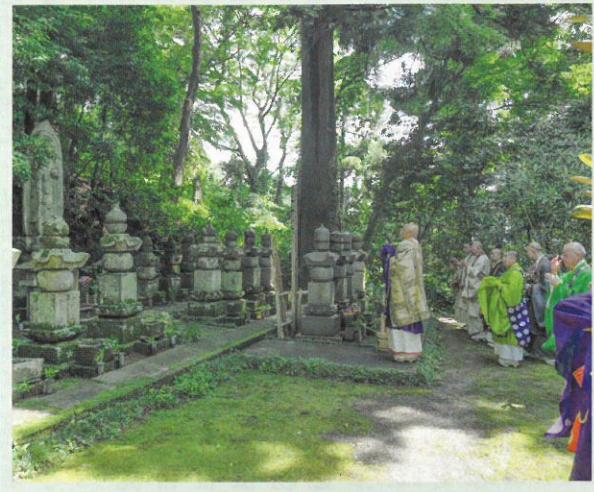
高尾山お施餓鬼大法要

七月十一日 於・山麓不動院



盆迎え火 先師墓地参り

七月十三日



恩師・菊地正先生に学ぶ(8) 創作書おろし 銀杏の木

八王子市 石井忠明

とんとんむかし、甲州街道八王子の追分交差点から中央線高尾駅前までの四・二キロに渡る銀杏並木約八百本は有名です。昭和二年（一九二七）二月八日大正天皇崩御に伴う「斎葬の儀」を記念して植樹されたもので、昭和三十九年（一九六四）、市の天然記念物に指定されています。しかしこの銀杏の木にはとても悲しい物語があるのです。それは昭和二十一年八月一日（一九四五）のことでした。

その日も夕闇が迫り、暑い夏の一日が終わろうとしていました。雄蕊の銀杏の木に声を掛けました。「今

年も銀杏の実を沢山つきましたね」雌蕊の銀杏の木はちょっと淋しげになりました。

「ああそうでしたね」銀杏同士の会話が夜中まで続きました。

するとおしべの銀杏の木が東の空を見て血相を変えて叫びました。

「ご覧！東の空が大きな鉛のような物体（B29爆

撃機）が編隊を組んで何やら（焼夷弾）落としている！数メートル間隔で地上で爆発している！アツ黒い雨が！火の手が近づいている！」雌蕊の銀杏の木も震えながら叫びました。

「アッ！どうしたらいの！逃げることもできないのです。それがとても悲しいのです。」雄蕊の銀杏の木が「そうですねここに植えられている限り駄目でしょうね。でも御陵様のために頑張らなくっちゃ、それに人間様も実際に食べてくれるし、でも臭いがね」雌蕊の銀杏の木がちょっと声を荒げて言いました。「何をおっしゃいますか！この臭いは数億年も前から生き残る為に考え抜いたものなのですよ！」

「ああそうでしたね」銀杏の木は東の空を見て血相を変えて叫びました。

「私たちの周りはもう火に亀裂が！」雄蕊の銀杏の木にも幅三十センチ、長さ数メートルの焼け焦げた亀裂ができてきました。

「私たちの周りはもう火の海だ！どうすることもできない！」大きな傷を負った銀杏の木が次々と叫び出しました。

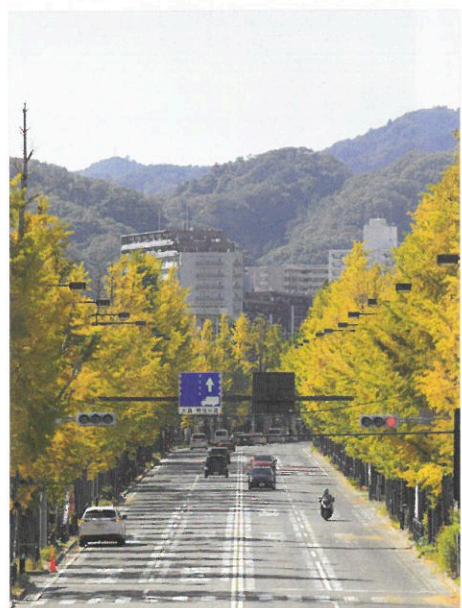
皆さん！私達の木は他の木よりも水をたくさん含んでいます。生き残るために更に根っこから水を吸い上げ蓄えなければなりません。

銀杏の木は何故か甲州街道の北側が多く、さらには南多摩高校の校庭に生きていていることがあります。今度散歩しながら大きな傷痕が残る銀杏の木に出会つたら、気になります。今度散歩しながら大きな傷痕が残る銀杏の木に近づけて聞いてください。まだ傷が痛いんだよ」とて本当に言うかも。

銀杏の木は傷つきながら生きているとのことです。そして毎年秋には沢山の銀杏の実を付け頑張つて生きています。まだ沢山あるのですから…

とんとんむかしはへえしまい

黄金に染まる銀杏並木



いけばなの心(53)

華道教授 佐藤 宗明

暑い、暑い夏がやってきました。今回の作品も前回の作品と同じく、水辺に生える植物と陸に生える植物と一緒に生けた作品です。この作品はナツハゼの枝に出会いた時、感じた感動を表現しています。「ナツハゼ」の大きな曲がりが、作品に躍动感を与えてくれます。

また、可憐な「乙女ゆり」を添えたことで暑苦しさのない、艶やかさを演出しています。そこに「しまふとい」を取り合わせる事で、水面から勢い良く伸びていく感じが、清々しい気持ちにさせてくれる作品となりました。夏の暑さが続く中で、この涼しげな雰囲気を感じる作品は、観る人に爽やかな風をお届けできると思います。

植物のそれらしさを重視する池坊ですが、手法によつては水物と陸物を交ぜて生けることができます。

いけばなの花材はそろそろ秋の空気を感じるのが見えてきました。次回も季節の移り変わりを感じられる、自然の美しさを取り入れた新しい作品をお届けしたいと思います。

まだまだ暑い時期が続きます。どうぞお体にお気をつけください。



如意輪觀音は大曼荼羅の觀音院などに描かれ
るが、この尊格を主尊と
したもののが別尊曼荼羅の
ひとつである如意輪曼荼羅
である。如意輪曼荼羅
のうち、主尊の周囲に神
格化した北斗七星や訶
梨帝母の八尊を配したもの
を七星如意輪曼荼羅とい
う。七星は「しちせい」とも
「しちしよう」ととも
読む。『七星如意輪曼荼

尊崇の対象であり、明治以降の日本人が西洋の概念として受容したアートの語義で解釈すべきではない。これは仏像が美術品ではなく祈りの対象として作られたことと同様である（長岡龍作『日本の仏像』中公新書、二〇〇九年、i～ii頁）。

七星如意輪曼荼羅は、不空訳の『七星如意輪秘密要經』を根拠として

〔大正大藏經〕第二十卷
二二四頁b) とある。これを翻訳すると、「中央に五色の輪が車輪のようにあり、その中央に如意輪觀音菩薩がいらつしやる。輪のスロークのあいだには七星と訶梨帝母がいらつしやる」となる。

らせたもの、あるいは更に周囲に八供養菩薩と四損菩薩を配したものがある。前者は主として円形曼荼羅となり、後者は方形曼荼羅となつて、如意輪觀音は六臂または十二臂である（田代前掲論文、九五頁）。北斗七星は、狼星・巨門星・存星・文曲星・廉貞星、武曲星・破軍星で、訶梨帝母は如意輪觀音の真

塚がある。北斗七星を祀る寺は観心寺が日本で唯一とされ、それぞれを巡礼する「星塚陵巡り」を行なうことができる。七星に加え、境内には室町時代建立の訶梨帝母天堂（重要文化財）がある。本尊の如意輪觀音を参拝した後、星塚と訶梨帝母を巡れば、まさに如意輪觀音曼荼羅の世界を脚で参拝したことになる。

することなどに用いられる語である。別尊曼荼羅もこれと同様、多くの尊格の中の一尊が他の曼荼羅で主尊となる点で現代語のスピノフに通ずる。チベット・モンゴル仏教圏にも別尊曼荼羅に相当する作例が多くあるが、ここでは触れない。日本において仏教の仏菩薩を主尊とするものから、神道の神々を主尊とするものなど、その「種別は、まず無限」といつてよからう（金岡秀友『密教の哲学』講談社学術文庫、一九八九年、二三頁）といわれる。

「曼荼羅の美術」小学館、一九七九年、七三頁）として、また、「七星如意輪秘密要經」によつて、天変地異、国土安穏のために修する七星如意輪法に用いる（井上一稔『如意輪觀音像・馬頭觀音像』日本の美術5、至文堂、一九九二年、二二〇二三頁）ために描かれたものである。このことからもわかるように、曼荼羅は、現代人が思うような美術として描かれたものではない。その主旨は

描かれたものである（田代有樹女「曼荼羅に見る
トメリ帝母像—像形の七分類を中心として」）『名古屋造形芸術短期大学
研究紀要』一五号、一九九二年、九五頁。真鍋俊照、前掲書、七二頁。
ただし、真鍋は『七星如意輪秘密經』とする）。『七星如意輪秘密要經』は、如意輪觀音を主尊とし、北斗七星とトメリ帝母を眷族とすることを説いた經典で、その像容や描き方も記している。それによれば、「中央造五色輪象如車輪。（中略）中央安如意輪王菩薩。」（一福

ティー(Hāritū)の音写で、鬼子母神(きしもじん)と漢訳する。鬼子母は「根本説一切有部毘那耶雜事卷第三十」や「仏説鬼子母經」など古層の經典では元は他人の子供を喰らう女であつたが、ブツダに教化され子供を守る女神となつた(金岡秀友『密教成立論』筑摩書房、一九八一年、一九九頁)。如意輪曼荼羅ではかつての忿怒の相ではなく、柔和な女性として描かれている。

七星如意輪曼荼羅には、如意輪觀音を中心とした八幅輪中に北斗七星と河梁帝母をめぐらす。

下や右下に描かれる（同）如意輪曼荼羅の多くは線描であるが、神奈川県の弘明寺所蔵のものは絹本着色の貴重な鎌倉時代の作例である（貞銅、前掲書四五、七二頁）。その画面の左右下方には蓮台に載せた羯磨金剛が描かれ七星如意輪觀音を護持している（同）。羯磨金剛とは三鉢杵を十字に重ねたもので、仏にそなわつた智慧を表すとされた。

国宝の如意輪觀音像（秘仏）を本尊とする大坂の観心寺には、如意輪觀音と北斗七星の信仰に基づき、境内に七つの星

如意輪觀音菩薩の像
稿において『高雄曼荼羅』などに描かれた如意輪觀音像を見た(「觀音菩薩の宗教」^{70)~73)}。以下では別尊曼荼羅における如意輪觀音を見るが、先ずは別尊曼荼羅とは何かを説明したい。

日本における曼荼羅は空海によつてもたらされた。空海は唐の惠果阿闍梨より曼荼羅を授かりこれを請來したが、そのオリジナルは伝存しない。しかし神護寺に伝わる『高雄曼荼羅』や東寺に伝わる『胎藏界曼荼羅』『金剛界曼荼羅』の両部曼荼羅は空海請來本の構図に基づき描かれたとされ、現岡曼荼羅あるいは現岡系の曼荼羅と呼ば

は平成二八（二〇一六）年より六年かけた修復が終わり、令和六（二〇二四）年に奈良国立博物館の「空海 KUKAI—密教のルーツとマンダラ世界」展や、東京国立博物館の「神護寺—空海と真言密教のはじまり」展で一般公開され話題を呼んだ。両部曼荼羅はしばしば真言・天台寺院に藏され、本堂の向かって右（東）に胎藏界、左（西）に金剛界が掲げられる。曼荼羅はこうした典型的な作例のほか、多様な表現様式がある。眞言宗における代表的な曼荼羅の分類は四種曼荼羅である。四種類のマンダラとは、すなわち大曼荼羅・法曼荼羅・三昧

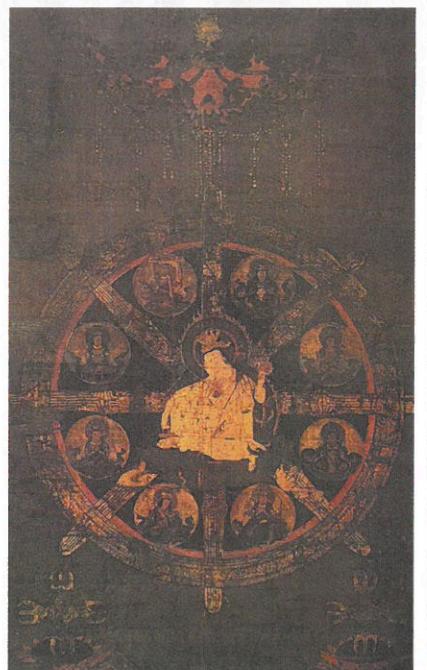
上述の現図
曼荼羅はその典型例である。法曼荼羅はそれぞれの尊格を象徴する種字すなわち梵字で表したものといい、三昧耶曼荼羅はおののおのの尊格に関わる仏具で示したものという。羯磨曼荼羅は仏像により立体的に曼荼羅を製作・配置したもので、空海が「四種曼荼羅離れず（原漢文）」（即身成仏義）と述べており、この一文は「その四つの方法（四種曼荼羅）のいずれをとっても、相互に深く連携しあつてゐる」と現代語訳され、「四曼（四種のマンダラ）は相互に独立な

のではなく、方法こそ違
いながら、そのあらわす
ところはすべて仏である」
などと解釈されている
（金岡秀友『空海即身成
仮義』太陽出版、一九八
五年、六四頁および一七
四頁）。また、曼荼羅と
は仏の世界を可視化・図
像化したもので、これに
ついて空海は、「密藏は幽
玄さげんにして翰墨はんもくに載せ難し。
更に図画を振りて悟らざ
るに開示す（原漢文）」
（『御請來目録』）と述べ、
その形式と意義を端的に
説明している。これを現
代語訳すれば、「密教は
奥深く計り知れない教え
であり、文字や言語で表
現することは難しい。そ

のため（言語表現に加えて）図像を用いて表現して悟ることができないものに分かりやすく示すのである」となる。四種曼荼羅のほかに、多様な作例の存する別尊曼荼羅がある。別尊曼荼羅とは、上述の両部曼荼羅などに描かれた尊格の一尊を「別個に」取り上げて、その尊格を主尊として製作された曼荼羅をいう。筆者はこれを尊格のスピノフと説明することがある。スピノフとは会社の一部門を分離独立させ別会社とすることや、ある映画やドラマのなかの一登場人物を抜擢して他の作品の主役に

如意輪觀音（その18）

国際教養大学特任教授 金岡秀郎



七星如意輪觀音曼茶羅。鎌倉時代。
神奈川県横浜市・弘明寺蔵
(真鍋俊照『曼茶羅の美術』小学館、
一九七九年、四五頁より)

魚沼のお盆は八月十三日の夕方からです。十三日の朝はお墓の掃除に、幸助爺とチュウ助とりんは行きました。墓場の入口に青い萱草には緑濃い「朴の木」の葉を一枚置きます。「どうして置くの?」りんは聞きます。

幸助爺は、そう話して葉っぱを丁寧に置きます。「明日、墓参りに来て仏様に餅をお供えする敷物じや」とりんは聞きます。

幸助爺は今度、草を切り始めました。「その草はどうするの?」「イタドリだ。子供のころ遊びながら良く食べたな」とりんは聞きました。

幸助爺は、懐かしそうに太いイタドリの茎を1cm位に切り、りんに手渡しました。

「ハハハア、すっぽいぞ」チュウ助が笑いました。「お墓の前に立てるんだ。ほら! 茎が空洞だろ。線香が良くさせるのさ」イタドリの茎をりんに見せました。幸助爺は墓の説明を始めました。

「ここは、古いご先祖さまの墓だ」確かに上の屋根型の石もかけて、掘った字も雨風に晒されて読めません。さらに、これは誰の墓、あれは誰々の墓と言われ、チュウ助と一緒に「ホウノ葉」とイタドリを置きました。

「りんちゃんも、このご先祖様と繋がっているんだ」幸助爺は夏の澄んだ青空を見上げて言いました。「帰つて仏壇の掃除じや」「はい!」

「わ~」幸助爺は元気



に詰め、ロウソク、線香、も準備されました。「皆で、座敷にある新しい盆浴衣を着て行こう」りんが、座敷に行くと、朝顔の大きな柄の浴衣がありました。「わ~、浴衣なんて初めてだわ。うれしい!」墓参りに新しいゆかたを着て行くから「盆浴衣」と聞きました。りんは爺さんに着せてもらいました。早い家ではお参りを済ませ線香の青い煙が朝風に揺れています。

「昔は、よその家の餅や菓子を食べると長生きすると言つたもんじや」「だからじいちゃん長生きなんだ!」「だからじいちゃん長生きなんだ!」「ははあ、そ

(挿し絵・小出茂)

お盆

湯沢町

富樫 あい子

おはなし散歩道

魚沼のお盆は八月十三日の夕方からです。

十三日の朝はお墓の掃

除に、幸助爺とチュウ助

とりんは行きました。

墓場の入口に青い萱草

には緑濃い「朴の木」の葉を一枚置きます。

「どうして置くの?」

りんは聞きます。

「明日、墓参りに来て仏

様に餅をお供えする敷物じや」とりんは聞きました。

幸助爺は、そう話して葉っぱを丁寧に置きます。

「その草はどうするの?」「イタドリだ。子供のころ遊びながら良く食べたな」とりんは聞きました。

幸助爺は、懐かしそうに太いイタドリの茎を1cm位に切り、りんに手渡しました。

一步一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

三十一段 人の良き所は褒めて育てる

「褒めて育てる」とは、欠点や失敗を必要以上に指摘せず、相手の良い部分を見つけて伸ばしていく事です。褒められた人は自信を持つことができるでしょう。ただし、時には、欠点を自覚できるよう指導する事も必要となります。

高尾山季節散歩

和風月名
葉月
「はづき」

八月の異称である葉月の有力な語源として、葉が落ちる月「葉落月」が転じて「葉月」となつたという説があります。現在の八月は葉が生い茂る時期ですが、旧暦では紅葉した葉が落ち始める頃でした。

冬瓜
「とうがん」

名前だけを見ますと冬の野菜に感じますが、実は夏が旬です。夏に収穫して上手に保存しておけば冬まで日持ちするため、この「冬瓜」という名前が付けられたと言われます。

柔らかく癖が無く、煮物やスープで食されることが多いです。

『高尾山健康登山の証』のお勧め

年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。

登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が参加されています。

期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されましても、健康登山者限定の記念品などと交換できます。



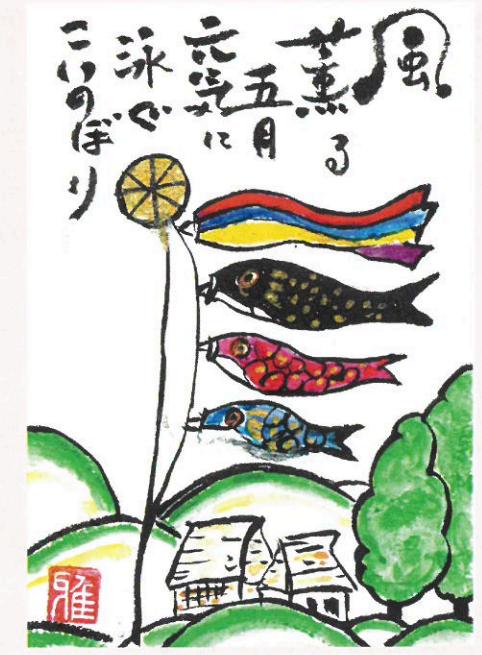
帳面………七百円
スタンプ……一百円

季節の絵手紙
「ときにはのんびり」

健康登山者投稿作品



「こいのぼり」とありますとどう



「こいのぼり」

八王子市 石井 雅子

高尾山内八十八大師巡拝のご案内

高尾山の昆虫

178

多くの方が参拝できますよう左記のように二つのグループに分け、途中（山上十二丁目茶屋前第十七番札所）で合流し、一緒に巡拝いたします。

A、不動院から蛇滝を経由して薬王院まで歩く

B、ケーブルカーを利用する
(蛇滝周辺の御大師様は巡回出来ません。)

また、ケーブル代金は自己負担になります。)

日 行 程 十月八日(火)

山麓不動院→蛇滝→仏舍利塔→大本堂(護摩修行)→坊入(昼食)→一号路(下山)→不動院(献灯式)→解散

参加費 五千円(昼食代・保険料含む)

集合場所 山麓不動院(八時集合)

定 員 四十名 ※定員に達し次第募集終了

(当山ホームページにて告知)

申込方法 ハガキに郵便番号、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

または、ホームページ・QRコードからお申込み頂けます。その際には必要な事項を

フォームに入力して下さい。

募集期間 九月二日(月)～九月三十日(月)
〒192-1868 八王子市高尾町二二七七

大本山高尾山薬王院 八十八大師係

※申込み後、順次行程表・詳細をお送り致します。



第百二十三回 信徒峰中修行会 十月十二日(土)～十月十三日(日)

【信徒峰中修行会】を、十月十二日から十三日まで

二日にかけて開催致します。

高尾山に広がる大自然全体を道場として、御本尊・飯縄大権現様に身を任せ、一心に修行してみてはいかがでしょうか。滝行や夜明け前行われる回峰行、また法話や有喜苑での柴燈大護摩供等を実践致します。

回峰行では、舗装され

ていない暗い山道を一定のペースで歩きますので、体力に自信のある方のみ御参加下さい。

※申込締切後、詳細を示した要綱をお送りします。



申込期間

九月二日(月)～
九月三十日(月)

参 加 費

二万五千円

*保険料含

定 員

四十人

*二十歳以上

定員となり次第締め

切ります。ホームページでご確認下さい。

集合場所 高尾山麓不動院
(初日昼食分)
運動着(登山靴可)

持 参 品

ヘッドライト
(初日昼食分)

軽食
(二日目未明分)

雨具
(カッパ・ポンチョ)

洗面用具、タオル
寝間着、筆記用具

*お持ちの方は、念珠や錫杖をご持参下さい。

お申し込みについて

左記のいずれかの方法でお申し込み下さい。

①ハガキに必要事項(郵便番号・住所・氏名とふりがな・年齢・性別・生年月日・当日連絡の

つく携帯電話番号・緊急連絡先(電話番号・名前・続柄)・アレルギーの有無)を明記してお送り下さい。

②QRコードからお申込み下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利用下さい。ご相談のある方は時間内(九時～十六時迄)に信徒峰中修行会係までご連絡下さい。



秋遊延歴寺
傳行最澄叡山創
大学を
主席卒業最澄様
全て国費の遣唐使行

不朽法燈燃煌煌
秋、延暦寺に遊ぶ
伝教大師最澄様は
比叡山を創建…

八月十八日生誕
不滅の法燈は
煌々と燃ゆる…

根本中堂満紫香
根本中堂に
宗祖の誕生日…
紫煙の香りは満つ…



高尾山には貯木場のような場所はないようですが、自然研究路の脇には倒木や薪が積まれた箇所があり、歩きながら覗いて見ることができます。そんな中、一際鮮やかな種を見かけることがあります。が、ヨツスジトラカミキリです。比較的大型のトラカミキリで、スマートなボディ、脚はスラッと長く、レモンイエローの体色が鮮やかで前胸には横一文字、上翅の肩の部分は櫻掛け、その下は横に一本とそれぞれ明瞭な黒の縞が入っています。いろいろなトラカミキリいますが、本種はなかなか高級感がある色彩をしていると感じます。毒性のある虫に擬態することは標識的擬態と呼ばれ、本種は明らかにアシナガバチに擬態していると思われます。この巧妙な擬態がどれ程の効果があるのか、一度調べてみたいテーマではあります。

(撮影・文 松島 孝)

毎日の
お護摩奉修時間

午前9時30分
〃 11時00分

午後0時30分
〃 2時00分
〃 3時30分

ご講中・団体等
御相談下さい。

令和六年盛夏



暑中お見舞い

申し上げます。



登山だより

九月行事日程

二十一日
飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供
(九時大本堂)

一日、七日
聖天秘供(聖天堂)
二日、十四日、二十六日
弁天秘供

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

九日、十七日

御詠歌勉強会十時山麓不動院

十四日、十五日

聖天堂開扉法要

二十八日

奥の院開扉法要(十時奥之院)
月例写経会(十三時山麓不動院)

二十九日

高尾山とんとんむかし

〔十二時半山麓不動院
「語り部の会」〕

毎月二十二日午前九時勤修
御志納金 一〇三千円以上

| | | | | | | | |
|------|-----|------|------|------|------|----|-----|
| 所沢市 | 川越市 | 新座市 | 小平市 | 比企郡 | 八王子市 | 小林 | 明弘 |
| 八王子市 | 市川市 | 伊勢原市 | 八王子市 | 八王子市 | 小池 | 宮島 | まり子 |
| 野村 | 秋山 | 石川 | 関 | 佐々木 | 彰山 | 道雄 | 光珠 |
| 綱二 | 千枝子 | 知男 | 文英 | 禮子 | 粧麗 | 晋介 | |



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115㈹
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円

下記のQRコード
から高尾山薬王院
のホームページに
アクセスできます
<https://www.takaosan.or.jp>



高尾山報助成金
御志納のお願い
高尾山では、大護摩修行
等により御縁を結ばれた
御信徒様に高尾山報を
送つております。
引き続いてご愛読され
ますよう、皆様方の助成
金御志納をお願い申し上
げます。